

経営の神様 松下幸之助の  
名言ブック

著者 大森拓也

# 松下幸之助 の名言集

## 【推奨環境】

このレポート上に書かれているURL はクリックできます。できない場合は最新

のAdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

## ◆ 著作権について

当レポートは、著作権法で保護されている著作物です。使用に関しましては、

以下の点にご注意ください。

◇ レポートの著作権は、作者にあります。作者の書面による事前許可なく、

本レポートの一部、または全部をインターネット上に公開すること、およびオークションサイトなどで転売することを禁じます。

## 松下幸之助のプロフィール

松下幸之助(まつした こうのすけ)は、和歌山県出身の実業家・発明家・技術者。

日本を代表する電機メーカー「パナソニック」

(旧社名：松下電器産業、松下電器製作所、松下電気器具製作所)を一代で築き上げた経営者であり

「経営の神様」とも称されている人物。

16歳の時に大阪電燈(後の関西電力)に入社し

7年間勤務した後、妻や友人5人で電球ソケットの製造販売事業を開始

(この時のメンバーには後に三洋電機を創業することとなる井植歳男がいる)。

1918年に事業拡大に伴い「松下電気器具製作所」を創業。

1935年に「松下電器産業株式会社」へと社名変更。

1946年に「PHP 研究所」を設立し倫理教育に乗り出す一方で

晩年は「松下政経塾」を立ち上げ政治家の育成にも力を注いでいた。

失敗の多くは、成功するまでに

あきらめてしまうところに

原因があるように思われる。

最後の最後まで

あきらめてはいけないのである。

石の上にも三年という。

しかし、三年を一年で習得する努力を

怠ってはならない。

いかにすぐれた才能があっても

健康を損なってしまっては

十分な仕事もできず

その才能もいかされないまま

終わってしまいます。

では健康であるために

必要なことは何かというと

栄養であるとか

休養とかいろいろあるが

特に大切なのは心の持ち方です。

命をかけるというほどの熱意を持って

仕事に打ち込んでいる人は

少々忙しくても疲れもせず

病気もしないものです。

こけたら

立ちなはれ。

「天は二物を与えず」と言うが

逆になるほど、天は二物を与えないが

しかし一物は与えてくれる

ということが言えると思う。

その与えられた一つのを

大事にして育て上げることである。

すべての人を

自分より偉いと思って仕事をすれば

必ずうまくいくし、

とてつもなく大きな仕事ができるものだ。

現在与えられた今の仕事に

打ち込めないような心構えでは

どこの職場に変わっても

決していい仕事はできない。

たとえ平凡で小さなことでも

それを自分なりに深く噛みしめ味わえば

大きな体験に匹敵します。

とにかく、考えてみることである。

工夫してみることである。

そして、やってみることである。

失敗すればやり直せばいい。

どんなに悔いても

過去は変わらない。

どれほど心配したところで

未来もどうなるものでもない。

いま、現在に

最善を尽くすことである。

人の心は

日に日に変わっていく。

そして、人の境遇もまた

昨日と今日は同じではないのである。

悪い時が過ぎれば、

よい時は必ず来る。

おしなべて

事を成す人は必ず時の来るのを待つ。

あせらずあわてず

静かに時の来るのを待つ。

人類の生命は無限。

だからその未来は無限。

だから、まだまだお互いに

進歩しなければならないのである。

冷静ほど

大事なことはないのである。

失敗すればやり直せばいい。

やり直してダメなら、もう一度工夫し

もう一度やり直

せばいい。

なすべきことをなす勇氣と

人の声に私心なく

耳を傾ける謙虚さがあれば

知恵はこんこんと湧き出てくるものです。

まず汗を出せ

汗の中から知恵を出せ

それが出来ないものは去れ。

一方はこれで十分だと考えるが

もう一方はまだ足りないかもしれないと考える。

そうしたいわば紙一枚の差が

大きな成果の違いを生む。

万策尽きたと思うな

自ら断崖絶壁の淵にたて。

その時はじめて

新たなる風は必ず吹く。

世の為、人の為になり

ひいては自分の為になる

ということをやったら

必ず成就します。

人には燃えることが重要だ。

燃えるためには薪が必要である。

薪は悩みである。

悩みが人を成長させる。

人の長所が

多く目につく人は

幸せである。

人は、あるところでは

卑劣に行動しながら

別のところで高德に振る舞うことは

できないのである。

その些細な心の緩みやごまかしが、

全体を蝕んでいくのである。

人は騙せても

自分自身は騙せない。

人は何度やりそこなっても

「もういっぺん」の勇気を失わなければ

かならずものになる。

人生における成功の姿は、

予知できない障害を乗り越え

自分に与えられた道を

着実に歩いていくことにあられる。

多くの人々の

わずかな工夫の累積が

大きな繁栄を生み出すのである。

楽観よし悲観よし。

悲観の中にも道があり

楽観の中にも道がある。

人がこの世に生きていく限り

やはり何かの理想を持ちたい。

希望を持ちたい。

それも出来るだけ大きく

出来るだけ高く。

志低ければ、  
怠惰に流れる。

仕事が伸びるか伸びないかは

世の中が決めてくれる。

世の中の求めのままに

自然に自分の仕事を

伸ばしてゆけばよい。

人生には損得を超越した一面

自分がこれと決めたものには

命を賭けてでも

それに邁進するという一面が

あってもよいのではないだろうか。

人間というものは

気分が大事です。

気分がくさっていると

立派な知恵才覚を持っている人でも

それを十分に生かせません。

しかし気分が非常にいいと

今まで気づかなかったことも考えつき

だんだん活動が増してきます。

人間は本来働きたいもの。

働くことをじゃましないことが

一番うまい人の使い方である。

他人はすべて自分よりもアカンと思うよりも

他人は自分よりエライのだ

自分にはないものをもっているのだ

と思うほうが結局はトクである。

何としても二階に上がりたい

どうしても二階に上がろう。

この熱意がハシゴを思いつかせ

階段を作りあげる。

上がっても上がらなくても

と考えている人の頭からは

ハシゴは生まれない。

十のサービスを受けたら

十一を返す。

その余分の一のプラスがなければ

社会は繁栄していかない。

商売とは

感動を与えることである。

商売や生産は

その商店や製作所を

繁栄させることにあらず

その働き、活動によって

社会を富ましめるところに

その目的がある。

売る前のお世辞より

売った後の奉仕

これこそ永久の客を作る。

失敗することを恐れるよりも

真剣でないことを恐りたい。

誠実に謙虚に

そして熱心にやることである。

人間の知恵というものは

しぼればいくらでも

出てくるものである。

もうこれでおしまい。

もうこれでお手上げ

などというものはない。

虫のいいことは

なるべく考えない方がいい。

自分の仕事は

人の助けなくして

一日も進み得ないのである。

アイデアを生むと言っても

口先だけでは生まれない。

これもやはり熱心であること。

寝てもさめても

一事に没頭するほどの熱心さから

思いもかけぬ、よき知恵が授かる。

失敗の原因を素直に認識し

これは非常にいい体験だった。

尊い教訓になった

というところまで心を開く人は

後日進歩し成長する人だと思います。

学ぶ心さえあれば

万物すべてこれ我が師である。

山は西からも東からでも登れる。

自分が方向を変えれば

新しい道はいくらでも開ける。

志を立てるのに

老いも若きもない。

そして志あるところ

老いも若きも

道は必ず開けるのである。

思ったことが

全部実現できたら危ない。

3回に1回くらいがちょうどいい。

恵まれた生活も結構だし

恵まれない暮らしも結構

何事も結構という気持ちが

大切だと思います。

悩みはあって当たり前。

それは生きている証であり

常に反省している証拠でもある。

感謝の心が

高まれば高まるほど

それに正比例して

幸福感が高まっていく。

才能なきことを

憂う必要はないが

熱意なきことを

おそれなくてはならない。

時には常識や知識から開放され

思いつきというものを

大切にしてみてもどうだろうか。

熱心は

人間に与えられた大事な宝である。

そして、この宝は

誰にでも与えられているのである。

視野の狭い人は

我が身を処する道を誤るだけでなく

人にも迷惑をかける。

わずかな人間の知恵の幅である。

賢さの中にも愚かさがあり

愚かさの中にも賢さがひそんでいる。

自分の金、自分の仕事、自分の財産。

自分のものと言えは自分のものだけれど

これもやっぱり世の中から授かったもの。

世の中からの預かり物である。

自分には 自分に与えられた道がある。

天与の尊い道がある。

どんな道かは知らないが

他の人には歩めない。

自分だけしか歩めない

二度と歩めぬかけがえのないこの道。

広いときもある。狭いときもある。

のぼりもあれば、くだりもある。

坦々としたときもあれば

かきわけかきわけ汗するときもある。

この道が果たしてよいのか悪いのか

思案にあまるときもあろう。

なぐさめを求めたくなるときもあろう。

しかし、所詮はこの道しかないのではないか。

あきらめろと言うのではない。

いま立っているこの道

いま歩んでいるこの道

とにかくこの道を休まず歩むことである。

自分だけしか歩めない大事な道ではないか。

自分だけに与えられている

かけがえのないこの道ではないか。

他人の道に心を奪われ

思案にくれて立ちすくんでいても

道は少しもひらけない。

道をひらくためには

まず歩まねばならぬ。

心を定め、懸命に歩まねばならぬ。

それがたとえ遠い道のように思えても

休まず歩む姿からは

必ず新たな道がひらけてくる。

深い喜びも生まれてくる。

終わり

最後に

---

最後まで 見ていただき

ありがとう ごさいました^-^

P S

フェイスブックもしてるので

よかったら 友達申請してください

私のブログ こちらの無料レポートカテゴリーから  
他のレポートも 見れます。

<http://fantasy008.seesaa.net/?1364447728>

[無料プレゼントはこちら](#)

[ヤフオクショップ](#)

私のFACEBOOK

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100004451826272>